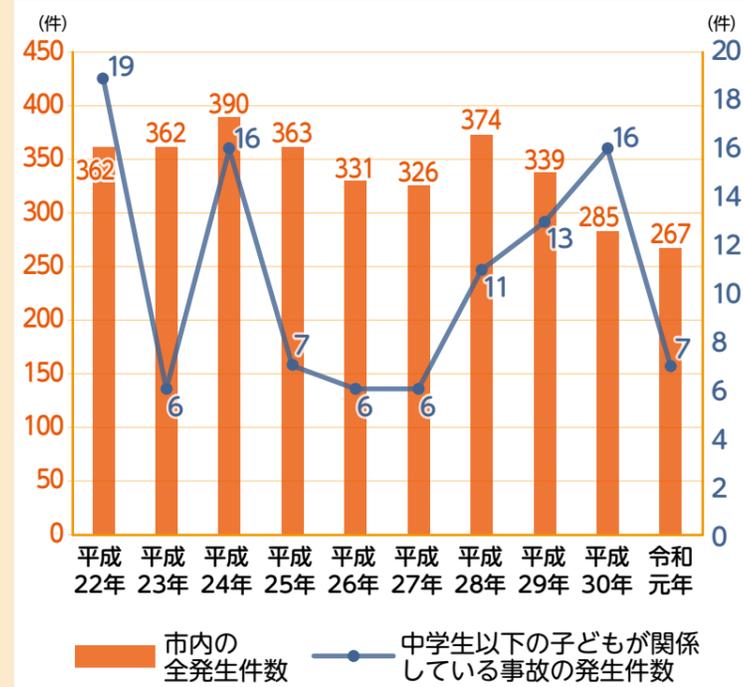


市内の交通事故の発生件数



※グラフに掲載した事故は全て人身事故。数値は各年12月末現在

市内の交通事故の発生状況

私は上西郷小学校区のみまもり隊をしています。みまもり隊とは、子どもたちの登下校時の安全の確保などを行う活動です。この活動をしていると、自動車の運転マナーや子どもたちをはじめとした歩行者のマナーが気になることがあります。また、アクセルとブレーキの踏み間違

いなどによる交通事故や「おおり運転」のような危険な自動車の運転がテレビや新聞で取り上げられています。そこで、市内の交通事故の発生状況について調べてみることにしました。交通事故のうち、けがなどを伴う人身事故の発生件数を調べると、毎年300件から400件近く発生していることが分かりました。また、数は少ないですが、中学生以下の子どもが関

係している人身事故も、毎年発生していることが分かりました。このような状況の中、自分の交通ルールや運転マナーを振り返ることは、交通事故を防ぐ第一歩になると考えました。そこで、交通安全に関わっている人たちに、事故に遭ったり、事故を起こしたりしないようにするために必要なことを聞いてみることにしました。

みまもり隊の活動を通じて見えること

まずは、私が所属している上西郷小学校区のみまもり隊のまじめな話を聞いてみました。倉元さんには小学校の教師を退職後、この活動を始めました。みまもり隊を通して見えてくることを聞くと、「見坂トンネルが開通してから、上西郷小学校区内の交通量が増えている」と語りました。さらに「交通量の増加とともに、交差点で右折や左折をする車が増えたので、子どもたちが横断歩道を渡る時に危険を感じる」と続けました。特に信号の点滅時が危険で、子どもたちが安全に横断歩道を渡るように、運転者にしっかり合図を送って

停車してもらおうように協力をお願いしているそうです。ほとんどの運転者は協力してくれませんが、中には無理に通行する車もいて「運転している人たちも急いでいることは分かるけれど、事故を起こさないためにも余裕を持って運転してほしい」と倉元さんはいます。また、子どもたちも左右の安全確認が十分にできていないことがあるそうです。倉元さんは「私も教師をしていたときに子どもたちに交通ルールを教えたけれど、学校だけではなく、家庭や地域などで、子どもたちにしっかりとルールを教えていきたい」と語りました。



▲みまもり隊から見た交通安全について語る倉元さん

街角記者が行く

～広報ボランティアの取材報告～



みんなで考えよう

交通ルール



新しい生活が始まり、誰もが慌ただしくなるこの季節。交通事故に遭わない・起こさないために、みんなで交通ルールについて考えてみましょう。



▲畦町で子どもたちの登校を見守る西岡和江さん(左)と薄紀文さん(右)。子どもたちの安全のために、登校日はほぼ毎日みまもり隊の活動をしています

街角記者

ありよしとしかか
有吉敏高



「みまもり隊」として地域の交通安全の推進に取り組んでいます。福津市観光ボランティアガイドとしても活躍中。

「街角記者が行く」とは、広報ボランティアが読者の皆さんを代表して記者となり、街角に出て、市や関連団体の取り組みを取材するコーナーです。記者の目線で、時には歯に衣着せぬ物言いで関係者を取材し、皆さんの疑問に答えていきます。

歩行者として 交通事故に遭わないために

交通事故は車を運転する人のマナーも大切ですが、歩行者が交通ルールを守ることも必要です。皆さんに守ってほしい、知ってほしい交通安全のための主なポイントを紹介しします。

ポイント① 横断歩道を利用しよう

遠回りでも安全を優先して横断歩道を利用しましょう。横断歩道以外の横断は運転者が予測しにくく、危険です。

ポイント② 危険な横断はやめよう

歩行者の速度を秒速1.0m、道路幅員を6mとした場合
斜め横断
横断時間・距離が長くなり危険です。

駐車車両の直前直後の横断
駐車車両が死角になり危険です。

走行車両の直前直後の横断
直前も危険ですが、直後も対向車の死角となり危険です。

「まだ大丈夫…」は「もう危ない！」

ポイント③ 信号を守ろう

横断開始前に点滅を始めたら、横断してはいけません。横断途中で点滅を始めたら、無理をせず引き返すか、速やかに横断しましょう。

ポイント④ 左右の車が止まるのをよく確認しよう

- 止まって** 横断するときは、安全な場所で一度止まりましょう。
- 見て** 左右をよく見て安全を確認しましょう。
- 待って渡る** 車が確実に停止するのを待ってから渡りましょう。

ポイント⑤ 夕方や夜間は明るい服と反射材を着用



▲明るい服と反射材を着用することで運転者が気付きやすくなります

日が沈むと写真の左の人のように暗い色の服を着ていたり、反射材を着けていなかったりすると、運転者から見えにくくなります。夕方や夜間は写真の右の人のように、明るい服と反射材を着用しましょう。

です。特に、横断歩道以外の横断や斜め横断のような危険な道路横断は事故につながりやすいため、やめてほしいと言います。近くに横断歩道があるのに、横断歩道以外を横断したり、斜め横断をしたりすることは、交通違反となります。また、歩行者が原因で重大事故が発生した場合、刑事責任を問われることもあります。時折、危険な道路横断をする人を見かけますが、事故の被害者や加害者にならない

ためにも、歩行者自身も交通ルールを見直す必要があります。自転車も歩行者を優先し「止まれ」の標識があるところでは、必ず

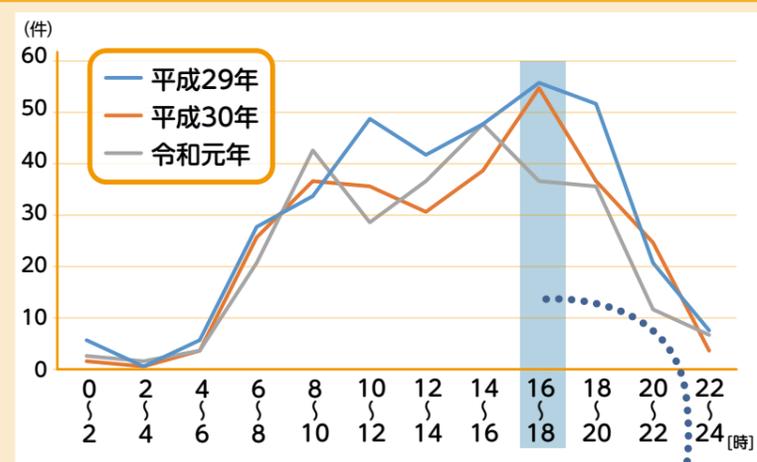
自転車のルールも守ろう

一時停止をして、左右を確認するなど、自動車の運転と同じルールが求められる」と語りました。子どもが起こした自転車の事故で、保護者に高額な賠償金が請求される事例もあるそうです。事故を防ぐために子どもも大人もしっかりと自転車のルールを守ることが大切だと感じました。また、事故に備えて自転車の損害賠償責任保険に加入しておくことも必要だと思いました。

歩行者も運転者も交通安全を意識しよう

倉元さんや小川さんの話を聞き、改めて交通安全について振り返りました。運転者はもちろんのこと、歩行者も交通ルールを守ることが思った以上に大切だと思いました。「このくらい大丈夫」という気の緩みが事故につながります。一人一人が交通安全を意識して、交通事故のないまちにしていきたいですね。

市内の時間帯ごとの交通事故発生状況



夕方に交通事故が多くなるのはなぜ？
交通事故は夕方や夜間、特に「薄暮時間帯」と呼ばれる日没時刻の前後1時間に多くなります。この時間帯は、周囲の視界が徐々に悪くなるので、歩行者や自動車など、お互いの発見が遅れたり、距離や速度が分かりにくくなったりするため、事故が起こりやすくなります。

市内の交通事故の特徴

倉元さんの話を聞いて、改めて「余裕を持って自動車を運転すること」の大切さを感じました。また、子どもをはじめとした歩行者も「交通ルールを守ること」が、交通事故の被害者にならないために必要だと思いました。

それでは、交通事故を減らしていくためには、他にどのようなことに気を付けたら良いのでしょうか。それをより深く知るために、市内の交通事故の特徴を調べてみました。
まず、交通事故の多い時間帯を調べてみると、午後4時から午後6時までの夕方に多いことが分かります。また、高齢者が関係している交通事故が、全体

交通事故を防止するために必要なこと

「交通事故を防止するためには、まずは運転者が『だろう運転』ではなく『かもしれない運転』を心掛けてほしい」と宗像警察署の小川浩幸さんは言います。交通事故は出会い頭の事故が多く、交差点では無理な右折や追突などによる事故が多いそうです。「自分本位の思い込みをせず、車の運転時は『こんな危険があるかもしれない』ということを念頭において、事故を未然に防ぐことが重要」と語りました。
一方で、歩行者も交通事故から身を守る意識が必要だと言います。「歩行者にも『自分は事故に遭うことはないだろう』という認識があるのかもしれないが、交通事故はいつ起こるか分からない。自分は大丈夫だと過信せずに、交通ルールを守ってほしい」と続けました。また、県内では夕方や夜間の約3割から4割と多くを占めていることが分かりました。これらの特徴を踏まえて、交通事故を防ぐためのポイントを宗像警察署で聞きました。



交通事故に遭わないためのポイントについて語る小川さん(左)▶

街角記者が行く

～広報ボランティアの取材報告～

